

ばんけい

教育ほっとにゅーず
かわら版こ みち
教育の小径No.207
2026 January
1月号

(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

うみ せん やま せん
海千山千

いろんなことを経験して、世の中の表も裏も知り、しぶとくずる賢くなっていることやそのような人のことをいいます。抜け目のないことに注目していることが多いようです。

理不尽な要望への対応策

- さまざまなパワー・ハラスメントがあります。保護者からの理不尽な要望はカスタマー・ハラスメント（カスハラ）にあたる場合があります。
- 保護者や住民の「要望」を一括して受け入れる窓口を教育委員会に設けるなど、教師を支援する体制をつくるのが大切です。

さまざまなハラスメント

「ハラスメント」というカタカナ文字をよく耳にします。ハラスメントとは「悩ますことや悩まされること」を意味しています。そこから、近年は優越した地位や立場を利用して、嫌がらせなどをしたり不快なことを言ったりすることを意味する言葉として広く使用されています。

従来から、セクシャル・ハラスメント（セクハラ）やパワー・ハラスメント（パワハラ）、モラル・ハラスメント（モラハラ）などが言われてきました。ほかにも、マタハラやジェンハラなどさまざまな「〇〇ハラ」があります。いずれにも共通していることは相手を不快にさせ、肉体的、精神的なダメージを与え、人間としての尊厳を傷つけていることにあります。けっして許されることではありません。

近年では、「カスタマー・ハラスメント（カスハラ）」を耳にします。これは、顧客からのクレームや要望、行動のうち、従業員の就労意欲を極端に低下させたり、スムーズな業務を著しく阻害させたりすることをいいます。ホテルや旅館、スーパーマーケット、病院、駅や列車などのほか、行政機関の窓口などで発生しています。

カスハラには、顧客の威圧的な言動や同じ要望の過剰な繰り返し、差別発言や人格を否定する言動、長時間の拘束行為などがあたります。東京都でカスハラ防止について条例化しました。令和6年4月から施行されています。

学校は子どもたちの成長を支援する教育機関であり、教育的なサービスを施す公共の施設だといえます。子どもたちや保護者は顧客であり、学校や教育委員会は事業主体者にあたります。

学校や教師と子どもたちや保護者とのあいだで、ハラスメントが発生することがあります。教師から子どもたちにパワハラが、保護者会から学校や教師にカスハラが発生する可能性があります。特に保護者からのクレームや理不尽な要望などのなかにはカスハラの対象になるものがあります。

保護者からのカスハラ対策

保護者の価値観が多様化してきたといえはそれまでですが、学校や教師には保護者から限度を超えた「要望」が寄せられることがあります。

次は、保護者から担任に寄せられた自分の子どもに関する「要望」です。「子どもが熱を出しているのですが、仕事がありますので登校させました。保健室で休ませてください。」

今月の記念日

1月4日 いし ひ
石の日

「い(1)し(4)」の語呂合わせ。この日に、お地蔵様や狛犬、墓石など石でできたものに触れながら願いをかけると、願いが叶うという言い伝えがあります。

「学校を休ませて、学習塾で受験勉強させます。塾で勉強しているので、出席扱いになりませんか。」

「塾の宿題がありますので、うちの子だけに学校の宿題を出さないようにしてもらえませんか。」

「学級替えで気の合わない〇〇さんと同じ学級になった。わたしの子を隣の学級に変えてください。」

保護者はよくよく考えて、学校に要求しているわけですから、頭ごなしに断ったり否定したりすると、むしろ事態がこじれることもあります。まずはどうしてこうしたことを要望してくるのかをしっかりと聞くことから対処します。そのうえで、学校としての方針や考え方を分かりやすく説明します。納得してもらえればそこで一件落着きますが、さらに長引くことも予想されます。対応する学級担任はそのために時間が割かれ、他の仕事が滞ることになります。精神的な痛手を被ることもあります。

これからは学校として対応する仕組みをつくり、教育委員会は弁護士や元学校管理職など専門家の協力を得て、学校への支援体制を構築することが考えられます。保護者のクレームなどに対しては、教師の精神的、時間的な負担を軽減する観点から毅然として対応したいものです。

教師の役割は何か

教師とはそもそもいかなる存在なのか。「教師観」をしっかりとつことは子どもたちを教育するうえできわめて重要です。教師は単に教えることだけが仕事ではありません。教師は子どもたちを教育する（教える）専門家です。教師には子どもに知識や技能、規範などを「教える」ことのほかに、次のような多くの役割があります。

まず、助言することです。子どもの状況に即した言葉かけですから、指導したり命令したりすることと比べてソフトな関わりです。子どもたちがつまずいたときやつまずきを防ぐためにかけられます。子どもの学びをさらに発展させたいときに発せられます。

次に、子どもたちの協働者として活動することです。ここでは、子どもと同じ土俵で関わりますから、子どもの心情や課題などをより身近に理解できます。子どもと教師とのあいだの壁を低くすることは大切ですが、教師が子どもに迎合することではありません。

さらに、学級集団を見わたしながら一人一人のよさや得意分野を生かすことです。これは子どもたちを多様な存在として受けとめ、それぞれに適切に関わることです。こうした営みは、オーケストラの指揮者がそれぞれの楽器のよさを生かしながら個別に出番をつくっていることとよく似ています。

そして、子ども同士のつながりをつくることや、同僚や保護者、地域住民などと連絡・調整することです。教師は組織の一員としての自覚をもって行動することが大切です。

教師には多様な役割があることを理解することが、確かな「教師観」をもつことにつながります。



変わるローマ字表記

ローマ字のつづり方について議論してきた文化庁の文化審議会は、このほどローマ字の表記方法を見なおすとの答申を提出しました。いままでは、昭和29年（1954年）に内閣が告示した「訓令式」でした。そこには国語（日本語）をローマ字でつづる場合には「訓令式」で表記すると示されていたのです。これからは「ヘボン式」に変更されることになります。

変更理由に、訓令式が国民のあいだに広くいきわたっていないことをあげています。戦後GHQが「ヘボン式」を示したことから、日常生活ではパスポートの氏名などのようにヘボン式が

採用されている場面があります。世の中に2つの表記が混在していました。

今年度中には内閣告示される予定です。ローマ字は3・4年の国語科で指導されています。これからはヘボン式に変更されることになります。

例えば「し」はs iからsh iに、「つ」はt uからt s uに、「ふ」はh uからf uに変わります。また「しゃ」はs y aからs h aになります。教室にヘボン式の一覧表が掲示されているとよいでしょう。

伸ばす音には、これまでどおり長音符号を使います。サーカムフレックスといわれる山型（^）の符号になります。t o k y oなど、すでに日常生活で定着しているものは変更しないとしています。



学力調査は「学力」の調査か

学力調査が文部科学省や都道府県などによって実施されています。経済協力開発機構（OECD）のPISA調査は国際的に行われている学力調査です。

調査結果が公表されると、前回と比べて学力が「上がった、下がった」と一喜一憂します。他の地域などと比べて、特に低い結果になると、子どもたちも教師も叱咤激励されます。

かつて、昭和30年代に文部省によって実施された「学力テスト」では、教育委員会や学校が平均点を上げることに懸命になったことがあります。一部の地域では、「テストがあつて授業がない」といわれ、学校教育が歪められました。この反省を踏まえて、いたずらに競争心を煽ることがないようにと、

文科省は警鐘を鳴らしています。ただ、都道府県ごとの結果が公表されていまずから、一覧にすると順位が明らかになります。調査結果を上げることに関心が集まるのは当然です。

学力調査は基本的にペーパーによるテストですから、問題作成におのずから制約があります。知識や技能の習得状況を把握するには適していますが、思考力、判断力、表現力などの能力や学習意欲や態度の育ち具合は、必ずしも十分把握することができません。そのため、「学力調査は学力のすべてを把握するものではない」としています。しかし、どうしても「学力調査」の結果だけが一人歩きしているようです。

国立教育政策研究所でも、教育課程実施状況調査の名で子どもの学力を把握しています。「学力調査」との重複が指摘されており、負担軽減の観点から、実施の有無を含めて、両者の関連性を検討する必要があります。（H）

INFORMATION

教科別しあげ教材
1教科で1冊

〇年へGO!

2・3年 国語・算数・漢字計算

4～6年 国語・算数・理科・社会
漢字計算



ご注文は文溪堂
代理店まで

「教育の小径」の
すべてのバックナンバーを
文溪堂ホームページから
お読みいただけます。

お知り合いの先生にも
お勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

編集後記

例えば「千葉」をローマ字入力する場合、ヘボン式（Chiba）よりも訓令式（Tiba）のほうが、タイピングが1つ少なくて済みます。効率を考えて、あえて訓令式で入力しているという人も多いのではないのでしょうか。ヘボン式に変わるとしても、状況に応じて使い分けられるとよいのではと思います。（H記）

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2026年1月1日